

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例															
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの			②設計の詳細検討により変更したもの												
要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書		要求水準書に関する質問書への回答		応募者に確認を要する技術的事項（技術提案書）		要求水準確認欄						
			質問番号	質問内容	回答	技術提案（提案員）	確認番号	確認事項	回答	業務遂行方針番号	業務遂行方針	要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考	
1. 要求水準書の変更により水準が下回る可能性があるもの															
01	観客席(椅子)の座面裏吸音材について														
第4節 ・施設性能 設計計画 (個別) 1 (8) 建築 スタンダード	390	3-17	e) スタジアム全体の音響効果に寄与するよう、座面裏などに吸音材を設ける。	161	座面裏などに吸音材を設けるとありますが、観客席に限らず、他の部位に吸音材等を施し、スタジアム全体の音響効果に寄与するように工夫をしてよろしいでしょうか。	座面裏に吸音材を設け、スタジアム全体の音響効果に寄与するように、他の部位にも適切に設けてください。 ○ 建築計画(1/3) ・ 座席は吸音材内蔵型とし 、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用することで、満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保します。	—	—	—	613	基本設計	・座席は吸音材内蔵型とし、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用。 ・満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保	・座席は吸音材内蔵型とし、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用することで、満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保する。	・座席は吸音材内蔵型とし、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用することで、満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保する。 維持管理にも配慮しつつ、スタジアムの残響性能を確保するにあたり、1, 2層スタンダードの座面裏吸音材が不要と考えられる。 よって、1, 2層スタンダードの座面裏吸音材を取り止める。(3層スタンダードは設置)	・座席は吸音材内蔵型とし、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用することで、満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保する。 維持管理にも配慮しつつ、スタジアムの残響性能を確保するにあたり、1, 2層スタンダードの座面裏吸音材が不要と考えられる。 よって、1, 2層スタンダードの座面裏吸音材を取り止める。(3層スタンダードは設置)
												・座席は吸音材内蔵型とし、大屋根の野地板に高圧木毛セメント板を使用することで、満席時(約8万席)に一般ドームと同等の残響時間5秒程度を確保する。			

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄			
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考	
02 コンコースの防水仕様について																
第2節 主な設計条件 1・施設構成と導入機能及び規模	81	3-2	各機能において必要となる主な諸室の面積及び要求水準は、【添付資料11】「各室性能表」による。 内部仕上げ(参考)より コンコース アスファルト防水 +保護コンクリート+無機系防塵塗床	—	—	—	○ 参考添付資料(1/10) 基本図面(1~8/12) 2階、3階コンコース ウレタンゴム系塗膜防水X-1仕様(ノンシリップ)	—	—	—	193	【添付資料11】「各室性能表」により設計を行う	基本設計 各WS等の内容を反映	【添付資料11】「各室性能表」を基本とし、各WS等の内容を反映した機能別諸室規模一覧表による。		
03 コンコース天井の変更																
第3節 経済性に関する性能 (共通) 5(2) 保全性に関する性能	229	3-10	なお、清掃、定期点検及び更新等の作業がしやすい内外装や設備計画とする。 コンコース 天井:ロックウール化粧吸音板	—	—	—	事業費 別紙様式4(1/3) コンコースの天井仕上を極力直天井仕上とした	30	コンコースの天井仕上げを極力直天井仕上げと提案されていますがコンコースは、天井有りが業務要求水準書となっています。どのような対応をお考えですか。 また、提案事業費の中で業務要求水準書を満足する(天井有り)対応をするものと考えてよろしいですか。	添付資料11-2.各室性能表:観覧機能:コンコース・共用部「屋根でおおわれていること」と記載あり。 また添付資料11-6.各室性能表:各室条件表は内部仕上げ(参考)と記載あるため、本提案では下記の効果やコスト、工程などを総合的に判断し、天井の無い設計を提案させて頂いております。 ①コンコースの空間の圧迫感の低減を図るため ②コンコースは大面積であり且つ半屋外空間のため ③避難上有効な蓄煙空間が確保できるため 業務要求水準書を満足する対応をすると考えてよろしいです。	606-2	コンコースの天井仕上を極力直天井仕上とする。	基本設計 1~4Fのコンコースは直天井としている。 GWを張り、岩綿吸音板天井と同等の明瞭度を確保している。	岩綿吸音板天井と同等の明瞭度を確保していることについて、実施設計時において詳細な検討を行い、JSCに報告する。		

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄		
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考
04 フラッシュインタビューゾーンの天井の変更															
第4節 ・施設計画(個別)	1 (3) 建築内部諸室計画	241	3-11	②仕上げの材料は、耐久性及びメンテナンス性に優れた材料を選定する。 フラッシュインタビューゾーン天井:ロックウール化粧吸音板	571	□内部仕上げ :機械室等の壁・天井 ・素地+グラスウール吸音材 →機械室の仕上げについて、機械室の種類に応じてグラスウールの非設置を提案してよいでしょうか。	【添付資料11】「各室性能表」のとおりとします。	30	コンコースの天井仕上げを極力直天井仕上げと提案されていますがコンコースは、天井有りが業務要求水準書となっています。どのような対応をお考えですか。また、提案事業費の中で業務要求水準書を満足する(天井有り)対応をするものと考えてよろしいですか。	434	添付資料11-2.各室性能表:観覧機能・コンコース・共用部・屋根でおおわれていること」と記載あります。また添付資料11-6.各室性能表:各室条件表は内部仕上げ(参考)と記載あるため、本提案では下記の効果やコスト、工程などを総合的に判断し、天井の無い設計を提案させて頂いております。 ①コンコースの空間の圧迫感の低減を図るため ②コンコースは大面積であり且つ半屋外空間のため ③避難上有効な蓄煙空間が確保できるため 業務要求水準書を満足する対応をすると考えてよろしいです。	—	基本設計	岩綿吸音板天井と同等の明瞭度を確保していくことについて、実施設計時において詳細な検討を行い、JSCに報告する。	
3 (1) 電気設備性能	3 ・共通事項	496	3-24	④各室性能は、【添付資料11】「各室性能表」による。 照明 天井埋め込み型カバー付(意匠的に配慮した照明)	—	—	照明 天井埋め込み型カバー付(意匠的に配慮した照明)	—	—	—	806	各室性能は、【添付資料11】「各室性能表」による。	基本設計	各設備の詳細については「機能別諸室規模一覧表」により計画する。	
													実施設計	フラッシュインタビューゾーンとホールについては、照明器具を用いて日本らしさを表現するために天井埋め込み型カバー付照明(意匠的に配慮した照明)から、特注照明(行灯型オリジナル照明)に変更する。	

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄				
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考		
05	3階ホールA(■) 仕上げ等の変更																
第1節 ・新国立競技場整備の基本的考え方																	
	76	3-1	・日本の伝統的文化を現代の技術によって新しい形として表現する。	—	—	—	■ゾーン 床:カーペット 壁:和紙調壁紙、柱型:木調パネル 天井:木調パネル	111	■3階■エリアの一角に、「文化体験ゾーン」が提案され、フレキシブルな木フレームの展示ユニットにより構成し、茶会や囲炉裏等の体験やライブラリー等の機能を各ユニットにもたらせた計画とするところですが、その設えは、提案事業費内で整備されると考えてよろしいですか。なお、展示ユニットは、何か所整備されるのかお示しください。 また、展示ユニット不使用時の収納スペース・方法について、お示しください。		床壁天井の室内仕上げ及び木フレーム、畳、囲炉裏、ベンチの展示ユニット計4箇所は提案事業費内です。「取り外し」は誤記で「ユニットを移動」に訂正いたします。空きスペース等を控室等利用可能な計画としております。	183	床壁天井の室内仕上げ及び木フレーム、畳、囲炉裏、ベンチの展示ユニット計4箇所は提案事業費内です。「取り外し」は誤記で「ユニットを移動」に訂正いたします。空きスペース等を控室等利用可能な計画としております。	基本設計	文化体験ゾーンの室内仕上げ並びに展示ユニット4台を設計内に見込んでおり、実施設計図面に記載する	技術提案書 日本らしさに配慮した計画(3/3)に記載している技術提案の内容を要求水準確認報告書に記載した。■用ラウンジ、■ラウンジ、文化体験ゾーンの内装仕上げについては、技術提案書に記載の内容に修正した。	
	06	記者席の通信用ジャック類およびコンセントの整備計画の変更															
第4節 ・施設計画(個別) 1 (8) 建築性能 スタンダード																	
		394	3-17														

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄		
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考
第3節 ・ 電気 施設 計画 (個別)	4 （1）共通事項	504	3-24	⑧記者席には、通信回線、テレビ映像、内線電話の通信用ジャック類を設置し、情報端末、手元灯を設置できるようコンセントを整備する。	—	—	—	—	—	—	815	記者席には、通信回線、テレビ映像、内線電話の通信用ジャック類を設置し、情報端末、手元灯を設置できるようコンセントを整備する。	基本設計	記者席には、各席にコンセント、LAN、内線TELアウトレット、TVアウトレットを設置する計画とする。	
													実施設計	座席の設置工事はオリパラ競技大会終了後となるため、建物完成時には通信回線、テレビ映像、内線電話の通信用ジャック類及び情報端末、手元灯用のコンセントは各席に設置せず、 <u>端子盤及び分電盤までの整備を行</u> う計画とする。	

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄			
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考	
2. 技術提案書の変更により水準が下回る可能性があるもの																
07	空の社の開放性の確保(外壁デザイン変更)															
第1節 ・社会性に関する性能 ・施設計画(共通)	164	3-6	(1) 賑わいと活力あるスポーツ施設の集積する明治神宮外苑エリアを象徴する中核施設として、周辺環境と調和したデザインとする。	—	—	—	技術提案書P.23 環境計画(1/3) 1-1 市民に開かれた新しいスポーツクラスターの拠点 ・周辺の公園空間からつながる「大地の杜」とスタジアム最上階(5階)の「空の杜」により、人と緑が重層的に連続する緑の歩行空間を創出します。 外壁:リブ付ALC板+塗装	—	—	—	300-1	周辺の公園空間からつながる「大地の杜」とスタジアム最上階(5階)の「空の杜」により、人と緑が重層的に連続する緑の歩行空間を創出します。	基本設計	軒庇で建築緑化を行い、周辺の公園空間からつながる「大地の杜」と「空の杜」により連続する緑の歩行空間を計画した。		
実施設計													空の杜の外壁デザインは、利用者の空間的な圧迫感軽減の理由により、リブ付きALC板+塗装のオーバーハングした立ち上がりスペースを形状変更し、 フラットな壁面のALC板+塗装+アルミルーバー(木調焼付塗装)に変更する。 風の大庇と同じ仕上げのアルミルーバーとすることで、デザイン上の統一感を図る。			
08	風の庭、風のテラス、情報の庭における一層の日本らしさの演出															
第4節 ・建築内部諸室計画(個別)	240	3-11	① 各室に求める性能は、【添付資料11】「各室性能表」による。 内部仕上げ(参考)より 情報の庭(コンコース) 床:無機系防塵塗床 壁:EP塗装 天井:ロックウール化粧吸音板	—	—	—	技術提案書P. 22 日本らしさに配慮した計画(3/3) 1-5 「日本」を世界に発信する「情報の庭」 ・3階コンコースの一角に、日本の様々な情報を紹介する「情報の庭」を提案します。企業や団体が日本の最新技術を紹介するほか、ギャラリーやイベントスペースなど市民活動の場として利用可能な計画とします。更に将来の観戦ボックスとの一体利用による収益性の向上を図ります。 ・多様な展示を行うことのできるように、照明や配線などフレキシブルな対応が可能な計画とします。 ・イベントを行っていない時はコンコースの一部となり、観客の休憩スペースとして機能します。 内部仕上げ(コンペ時想定) 情報の庭 床:ウッドデッキ 壁:塗装 天井:木調ルーバー	—	—	—	430-4	・3階コンコースの一角に、日本の様々な情報を紹介する「情報の庭」を提案。 ・多様な展示を行うことのできるように、照明や配線などフレキシブルな対応が可能。 ・イベントを行っていない時はコンコースの一部となり、観客の休憩スペースとして機能する。	基本設計	3階コンコースの一角に情報の庭を提案 多様な展示用の照明や配線のフレキシブルな対応として情報の庭の天井には、ライティングレールを設置		
実施設計													・多様な日本らしさの演出と空間の開放性を確保するため、木調ルーバーによる天井面の演出に代えて、 直天井に行灯照明を使った空間演出 とする。 ・多様な展示に対応できるよう、スポット照明のライティングレールを配します。 ・メンテナンス性向上の理由により、床仕上げを ウッドデッキから、コンコースと同仕上げの塗床に変更する 。			

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄			
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考	
	240	3-11	内部仕上げ(参考)より 風のテラス(コンコース) 床:無機系防塵塗床 壁:EP塗装 天井:ロックウール化粧吸音板	—	—	—	技術提案書P. 22 日本らしさに配慮した計画(3/3) 1-7 日本らしさを演出する「風のテラス」「風の庭」 ・「風のテラス」に面した「風の庭」は、枯山水を配し、サクラや紅葉、雪景色などの映像投影に利用するなど、日本の四季を感じることができる空間を提供します。 内部仕上げ(コンペ時想定) 風のテラス 床:ウッドデッキ 壁:塗装 天井:木調ルーバー 開口部:開閉可能な格子状の引分け戸	—	—	—	430-5	・「風のテラス」に面した「風の庭」は、枯山水を配し、サクラや紅葉、雪景色などの映像投影に利用するなど、日本の四季を感じることができる空間を提供します。	基本設計	「風の庭」は、枯山水を配し、サクラや紅葉、雪景色などの別途工事の映像投影に利用するなど、日本の四季を感じることができる空間を提供する。		

09 風の大庇 アルミルーバー部材寸法変更

第2節 主な設計条件	3 ・建物形状の条件						○ 維持管理費抑制(1・2/2) 日本らしさに配慮した計画(1/3) 3-6 スタンドに風を導く「風の大庇」 ・四季を通して施設周辺の風環境を検証し、3層スタンドに風を導く「風の大庇」を設置することで、スタンドの観戦環境を向上させます。 ・「風の大庇」により、スタンドに導かれた風はスタンド下方へ流れる下降気流となり、観客席に風を呼び込みます。 3-7 「風の大庇」の格子の幅で風の量を調整 ・日本の伝統的な風の取り入れ方に倣って、風を取り込みます。夏の季節風を取り込むために、「風の大庇」の格子を密にし、風をとらえます。 ・一方、冬季の北風に対しては、格子の間隔を拡げて、風を受け流すようにします。 ・各季節ごとに直越風に合わせたシミュレーションを検証しながら、格子の間隔を設定します。 ・強風なども想定し、競技をする上で「追い風参考記録」などの影響を及ぼさないように、競技環境に適切な形となるように、格子の間隔を方位ごとに設定します。 (略)	—	—	—	277	風の大庇、風の庭、風のテラス等通風のための設えを備えた計画としている。 風の大庇は格子の間隔を季節風、卓越風の状況に合わせた設定なるよう計画する。この格子間隔は通風シミュレーションによって設定する予定である。芝環境もこのシミュレーションを通じて影響の縮減効果を確認する。 観客席の温熱環境確認では気流に加え、日射影響を考慮し、評価指標として体感温度(SET)を使用したシミュレーションを行い確認した。 各階に休憩室、休憩スペースを設けている。	基本設計	風の大庇、風の庭、風のテラス等通風のための設えを備えた計画としている。 風の大庇は格子の間隔を季節風、卓越風の状況に合わせた設定なるよう計画する。この格子間隔は通風シミュレーションによって設定する予定である。芝環境もこのシミュレーションを通じて影響の縮減効果を確認する。 観客席の温熱環境確認では気流に加え、日射影響を考慮し、評価指標として体感温度(SET)を使用したシミュレーションを行い確認した。 各階に休憩室、休憩スペースを設けている。		
148	3-5	(5) 観客席の観戦環境、フィールドの競技環境の向上(夏季の熱中症対策等の暑さ対策を含む。)や芝のメンテナンスのため、通風等の採涼に配慮した計画とする。	—	—	—	—	—	—	277	技術提案書において、風の大庇アルミルーバーの断面寸法は 200×200 としていたが、大庇ルーバーとの統一性と軽やかさを表現するために、断面寸法を 200×60 に変更する。	実施設計					

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄		
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考
10	B2Fせせらぎの配置の見直し														
第4節 ・建築・施設性能 ・外構 （個別）	1 （ 1 3 ）														
452	3-20	—	① 明治神宮外苑の豊かな緑を後世にわたって継承するため、明治神宮外苑の緑と調和する緑化計画とする。	—	—	—	技術提案書P. 22 日本らしさに配慮した計画(3/3) 1-1 日本の里山の景観を創出する「大地の杜」 · 1階の「大地の杜」には、モミジなどの彩りある雑木と渋谷川の「せせらぎ」の再現によって日本の里山の景観を創出し、四季の変化を感じられる外構計画とします。	—	—	—	695	基本設計	· 北側の水を循環させる「せせらぎ」は地形に沿ってB2Fエレベーター前まで流れる。 · ベデストリアンデッキ下部(B2F)の「せせらぎ」は、降雨時のみ水が自然に流下する水辺である。また、途中で地面に浸透する仕様としているため、降雨がない時は表面は乾いている。 · B2Fで降雨時の雨水が流れれるせせらぎについて、外苑西通りの縦断勾配を精査したところ、南に行くに従い地盤レベルが下がる部分と逆勾配で上がっていく部分とがあった。そのため、水を南に流していくことを考えるとせせらぎを設置可能なエリアが限定されてしまう。設置可能な部分(NW5通り～SW4通り)は、現在計画中の記念碑の設置場所と一致しており、今後は記念碑を見学する上で、せせらぎの存在が不都合にならないかを精査する。	—	—
											実施設計		· 北側の水を循環させる「せせらぎ」は地形に沿ってB2Fエレベーター前まで流れる。 · ベデストリアンデッキ下部(B2F)の「せせらぎ」は、降雨時の水が自然に流下する水辺である。また、途中で地面に浸透する仕様としているため、降雨がない時は表面は乾いている。 · "水"を溜めるせせらぎを実現することが困難な場所がある。 ⇒①せせらぎ間につなぐ配管が鳥居形となり、死水による蚊の発生が懸念される。 / ②B2F通路部に記念碑の設置スペースと鑑賞スペースを設ける必要がある。 / ③地盤面の勾配が渋谷川の水の流れの向きと逆になる場所がある。 · 歩行者への安全性や維持管理の容易さを図る目的で、自然の水辺の形状を維持しながら、配置の見直しを行う。なお、せせらぎの延長(長さ)は変更しない。 ⇒①死水をつくるよう、せせらぎを連続させる。 / ②記念碑の前のせせらぎは壁際に寄せB2F通路部を広く取り、必要に応じて手摺を設置する。 / ③上り勾配の地盤面とせせらぎ底面の高低差を一定値まで許容し、せせらぎを配置する。		

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄			
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考	
11.12 南側ペデストリアンデッキの構造架構の変更、PCa段床とレイカー梁との接合方法の変更																
第4節 ・構造設計の方針 ・施設性能 ・施設設計画 （個別）	(1)	473	3-21	—	—	—	構造計画(2/3) (略) ・南側ペデストリアンデッキは鉄骨ブリース構造とし、1層建物として十分な耐力・剛性を有する耐震構造とする。 ・西側ペデストリアンデッキは東西方向に幅が狭く、また下水本管(千駄ヶ谷幹線)を柱がまたぐため、スタンド本体と一緒にした構造として、耐震性を確保する。 (略)	144-2	各階あたり相当数のダンパーを設置することと推察されます。が、建築、設備計画との整合がどれたダンパー配置計画と考えてよろしいでしょうか。	よろしいです。	技術提案書p.28の図は、模式図のため接合ボルトは省略しております。 PCa段床とレイカーラー梁、また上下のPCa段床間はボルトで接合します。 PCa段床に作用する地震力を接合ボルトを介して上下階のスラブに伝達し、ブレースやダンパーへと伝達する計画です。	753	基本設計	・西側ペデストリアンデッキはスタンドと一体化した構造とする。 ・南側ペデストリアンデッキは、鉄骨ブリース構造とする。		
・西側ペデストリアンデッキはスタンドと一体化した構造とする。 ・南側ペデストリアンデッキは、外苑西通りからの玄関口として地域に開かれた広場空間とするため、ブリース構面をなくし、構造架構は鉄骨フレース付ラーメン構造から純ラーメン構造に変更する。尚、耐震安全性の分類に関しては要求水準に変更ではなく、II類としての重要度係数 $I=1.25$ を考慮した保有水平耐力を確保した設計とする。 ・PCa段床とレイカーラー梁との接合方法について、技術提案では、温度伸縮により接合ボルトに応力が集中し、PCa段床にひび割れが生じる可能性があるため、PCa段床とレイカーラー梁を一体化する方法から、接合ボルトとボルトスリーブのクリアランスにより吸収する方法へと変更し、PCa段床のひび割れを回避する。 PCa段床に作用する地震力は、接合方法の変更により、接合ボルトを介して上下階のスラブに伝達させず、レイカーラー梁によって上下階架構に伝達させる設計方針とする。尚、接合方法の変更によるPCa段床の鉛直剛性の変化はなく、段床の振動性状は変わらない。																

要求水準確認報告書（技術提案時からの変更点2016.08.23委員会説明）

資料1-1

凡例		
①関係団体の要望、行政協議等により変更したもの		
②設計の詳細検討により変更したもの		

要求水準の分類	番号	頁	業務要求水準書	要求水準書に関する質問書への回答			技術提案 (提案頁)	応募者に確認を要する技術的事項 (技術提案書)			業務遂行方針 通し番号	業務遂行方針	要求水準確認欄		
				質問番号	質問内容	回答		確認番号	確認事項	回答			要求水準確認の段階	対応報告/事前(JV)	備考
13 地下階SRC造柱変更時のS造柱の仕上げについて															
第4節 構造性能 施設設計 （個別）	2 （1）	—	—	—	—	—	152	最外周の柱にはSRC造を採用しております。現状では柱脚部は鉄骨部分のアンカーボルトとRC部分の鉄筋で引張力に抵抗しています。直接基礎部分に引張力が生じた場合は放射方向の基礎梁を使って浮き上がりを抑えます。	最外周の柱にはSRC造を採用しております。現状では柱脚部は鉄骨部分のアンカーボルトとRC部分の鉄筋で引張力に抵抗しています。直接基礎部分に引張力が生じた場合は放射方向の基礎梁を使って浮き上がりを抑えます。	⑦最外周の柱にはSRC造を採用し、柱脚部は鉄骨部分のアンカーボルトとRC部分の鉄筋で引張力に抵抗する。直接基礎部分に引張力が生じた場合は放射方向の基礎梁を使って浮き上がりを抑える。他の鉄骨柱脚部は露出柱脚で計画する。	765	基本設計	・外周部の地下階柱(R6,7通り、B2階,B1階)は、SRC造からS造に変更し、ソフトアースストッパー制震構造の性能を向上させる。 ・外周部柱は、屋根を受ける支持柱であることや、雨掛けとなる地上部の柱の施工性や耐久性を考慮し、技術提案時においては、地下階から最上階までの全層の柱をSRC造として計画していたが、変更により、下層階の層剛性を小さく、ソフトアースストッパー制震構造の性能を向上させる。 ・この変更により、最大応答せん断力を約20%低減でき、耐震性能を向上させることができる(基本設計段階の検討)。 ・変更する地下階の柱は、雨掛けとならないため、中柱と同様の仕様とし、品質を確保できる。また、変更による工事工程の影響は無い。 ・柱脚は、SRC造非埋込み形柱脚からS造露出柱脚に変更し、半剛接合として回転ばね剛性を評価する。柱脚に生じる引張力に対しては、高強度のアンカーボルトにより抵抗する。 ・直接基礎部分に引張力が生じた場合は、放射方向の基礎梁によって浮き上がりを抑える。	—	
		—	—	—	—	—					766	実施設計	・外周部の地下階柱(R6,7通り、B2階,B1階)は、SRC造からS造に変更し、ソフトアースストッパー制震構造の性能を向上させる。 ・鉄骨柱の部分は、リングロードに面している柱の駐車場に面する部分は、特に耐久性に配慮しALCの角柱とし、それ以外の部分は耐久性を踏まえ、半乾式ロックウールにセメントスラリー吹付仕上げとする。また車両の通行があることから、仕上げ面の保護のためリングロード側の柱コーナー部にガードポールを設置する。 ・外部に面する部分は雨掛けであることと、耐久性に配慮しセミシック系耐火被覆に野外仕様の塗装を施した仕様とする。	—	